

聖使徒行実の読み（6：1～7）

謹みて聴くべし

か 彼の日、門徒、^{ますます}益、^{くわ}加はりしに、「エルリニスト」がエウレイ人に對して^{たい}怨言^{うらみごと}せし

ことあり。彼等の^{やもめ}寡^{ひび}が日日の^{ほどこし}施濟^{おい}に於て^{かる}軽んぜられし^{ゆえ}故^{じゅうに}なり。十二の使徒は

^{たいすう}大数^{まね}の門徒^いを招きて曰へり、

『我等、神の^{ことば}言^おを^{こと}舍^{つと}きて、食卓の事^{よろ}を^{ゆえ}務^{けいてい}むるは、宜^{けいてい}しからず。故^{ゆえ}に、兄弟^{けいてい}よ、

爾等の中より、^{うち}善^よき^{しょう}證^えを得、^{せいしん}聖神^{ちえ}と^{しちにん}智慧^{えら}とに満てられたる者、七人^{えら}を^{えら}擇^{えら}べ、我等、

^{これ}之^たを立て、^こ此^{こと}の事^{つかさど}を^{もつぱ}司^{でんきよう}らしめ、我等は、^{つと}専^{つと}ら^{つと}祈^{つと}禱^{つと}と^{つと}傳^{つと}教^{つと}とを^{つと}務^{つと}めん』。

^こ此^{ことば}の言^{しゅうみん}は、衆^{よるこ}民^{よるこ}に^{つい}悦^{しん}ばれて、^{せいしん}遂^{せいしん}に、信^{せいしん}と^{せいしん}聖^{せいしん}神^{せいしん}とに満てられたる人、ステファ

ン、又フィリップ、プロホル、ニカノル、ティモン、パルメン、及びアンティオヒヤの

^{しんきようしゃ}進^{しんきようしゃ}教^{しんきようしゃ}者^{しんきようしゃ}ニコライ^{しんきようしゃ}を^{しんきようしゃ}選^{しんきようしゃ}びて、^{これ}之^{これ}を^{これ}使^{これ}徒^{これ}等^{これ}の^{これ}前^{これ}に^{これ}立^{これ}て、^{これ}彼^{これ}等^{これ}、^{これ}祈^{これ}禱^{これ}して、^{そのうえ}手^{そのうえ}を^{そのうえ}其^{そのうえ}上^{そのうえ}に

^の按^のせたり。

^{ことば}神^{ことば}の言^{ますます}、^{ちよう}増^{ちよう}、^{すう}長^{すう}じ、^{はなはだ}門^{はなはだ}徒^{はなはだ}の^{はなはだ}数^{はなはだ}、^{すう}甚^{すう} イエルサリムに^{すう}増^{すう}加^{すう}し、^{うち}司^{うち}祭^{うち}の中^{うち}にも^{うち}多^{うち}

^{したが}く^{したが}教^{したが}に^{したが}順^{したが}ひ^{したが}し^{したが}者^{したが}あり。